



巻頭言

「当たり前」を当たり前！」

代表取締役専務取締役 菊地 彬

昨夏、首都圏でクレーン船が基幹送電線に接触し大停電が発生しました。お盆休みの朝に発生したにも拘らず、交通信号が消えて交差点は大渋滞、電車は動けず駅には、人が溢れ、地下鉄やエレベーターでは大勢の人が閉じ込められるなど大変なパニックになったことは記憶に新しいところです。この様な人為的事故の他、異常気象も年々そのレベルがひどくなっており、平均気温の上昇、年初の台風並みに発達した爆弾低気圧の来襲、記憶に無い規模の突然の竜巻発生、時期外れの大雨や落雷等々など想定外の事象が増えて来ているように思われます。このような気象現象が電力供給にも想定外の悪影響を及ぼし、益々“当たり前”を当たり前でなくすることが多くなって来ています。

一方、私たちの周りには便利なモノやコトがあふれ、生活に不自由を感じるものがなくなりました。生活は衣・食・住の3基本要素からという言葉も最近はあまり取り上げられず、飽食時代等有り余っている様子の言葉が氾濫しています。“もったいない”という今もっとも必要と思われる日本語も死語となりつつあります。

現代社会を支える土台としての電気エネルギーはそれが無くなった時にしか思い出されない存在となっています。電気は空気や水と同じで「あって当たり前」になっており、それが喪失した時の怖さは計り知れないものである事を改めて考えさせられます。

さて日新電機では、約100年にわたり、電力流通にかかわる設備やシステムを提供し続け、安心に暮らせる社会に貢献すべく技術開発を行ってきました。お蔭様で66/77kV縮小形受変電設備では昨年業界トップのシェアを獲得することが出来、お客様からも高い評価をいただいております。私たちの生活を支える電気エネルギーは、必要な「量」を安全に供給されれば良いだけでなく、近年とみに停電せず、変動せず、ノイズもない、高い「品質」が求められています。なかでも落雷などによる瞬時電圧低下（瞬低）現象は特に半導体、液晶などに関連しているIT製品の生産現場において甚大な被害をもたらしており、高品質の電気の供給が「当たり前」でなくなっています。

本報告ではパワーエレクトロニクス技術を応用した瞬低対策装置ほか電力品質改善分野を中心に、「電気はあって当たり前」を当たり前にする技術・製品をご紹介します。

今後とも高品質な電力をお使いいただく為に役立つ技術開発をつづけ、お客様の安心を確かなものにする努力を続けてまいります。引き続きご指導、ご鞭撻いただける事を祈念しております。